

これまでビジネスシーンで主に活用されていたテレワークやリモートでの交流が、プライベートシーンにおいても一気に普及し身近なコミュニケーションのかたちとして、新しい繋がりの形態ができあがってきました。

もちろん、直接対面して相手の空気感や熱量を感じながらコミュニケーションをとることが一番良いのですが、現時点ではその選択肢を選びにくくなっているため、今後も遠くの人と素早く繋がれるツールとして、より発展していくことは間違いありません。

しかし、気軽に人に会うことができないうというのは、精神的にも大きな苦痛を与えます。

春から大学へと進学した学生の皆様の中には、仲間たちと直接顔を合わせることもできず、不安を抱えていたり、実家を離れて働いている人達が中々帰省できなかつたりと、発展するものがある一方で、深刻な問題も表面化しています。

先々、このマイナスな面を私たちはどのようにしてプラスへと変換することができるでしょうか。
不安へと大きく傾いてしまった心に活力の火を灯すためには、何をしなければならぬのか。

SAIN ESSAY 逆境から生まれる 未来の 新しいかたち

浦上 日章
Urakami Nissho

いまこのコロナ禍を生きている私たちが見失ってはいけない事実として断言できるのは、良い意味でこの逆境を糧としなければならぬこと。

いまを乗り越えたからこそ、と思えるような希望に溢れた未来の社会を見据え

た行動を選択していかなければならないことではないかと思えます。

それでも世の中が大打撃を受けている事実がなくなるわけではありませんが、思考を巡らせ思いもよらない着眼点で新たな成果を発揮し、さらなる進化を遂げている企業も多くなってきました。

私たち企業にとっては、それこそがまさに「いまできること」の証であり、社会に貢献できる一つの方向性であると受け止めています。

困難の中でこそ生まれた新しい知恵や希望が掛け合わされた、新しい未来が来ることを信じて、またその未来において、私たちが誰かの役に立ち続けていくように、変化に忠実に進化に貪欲に、私たちだけにしか表現できないスタイルを模索し続けていきたいと思えます。

逆境から希望へ、その光に向かっていまを歩んでいきましょう。